

私の抱負

あの感動をもう一度

生物系 助教授
城所俊一

生物のような複雑な対象を相手にしていると、予期しない実験結果に遭遇することがしばしばあります。良く調べたら測定法に間違いがあった、ということも多いのですが、調べれば調べるほど、分からなくなってしまうことがあります。そして測定を繰り返すとともに、まだだれも知らない現象や概念が隠れているに違いないという思いがフツツと沸いてくることがあります。この時期は、辛抱が必要ですが、あれやこれやと考えながら試行錯誤を繰り返す楽しい期間です。

人間の感覚は、“ギャップ”に敏感になるようにできています。今までとは違うこと、期待とは違うことに強い刺激を受けるわけです。脳が“ギャップ”に敏感なおかげで、人類は環境の変化に敏感に対応し進化の競争に勝利してきたのかもしれませんが。未知のものに対して強い興味を持つのも、この感性が原因なのでしょう。

何か未知のものが隠れていると思い熱中していても、この状態が長く続き、それに慣れてしまうと、残念ながらだんだんと刺激は弱くなってしまいます。迷宮入りのままに投げ出してしまうことが実際には多いのです。しかし、この時期に真実を垣間見る幸運にめぐり合うと、一生忘れられないような感動を得ることができるわけです。

長岡の地で、より大きな刺激を自分自身も受けられるように、そして学生の皆さんにも少しでもこの感動を味わってもらえるように、そんな研究・教育をめざして、力を尽くしたいと思っています。